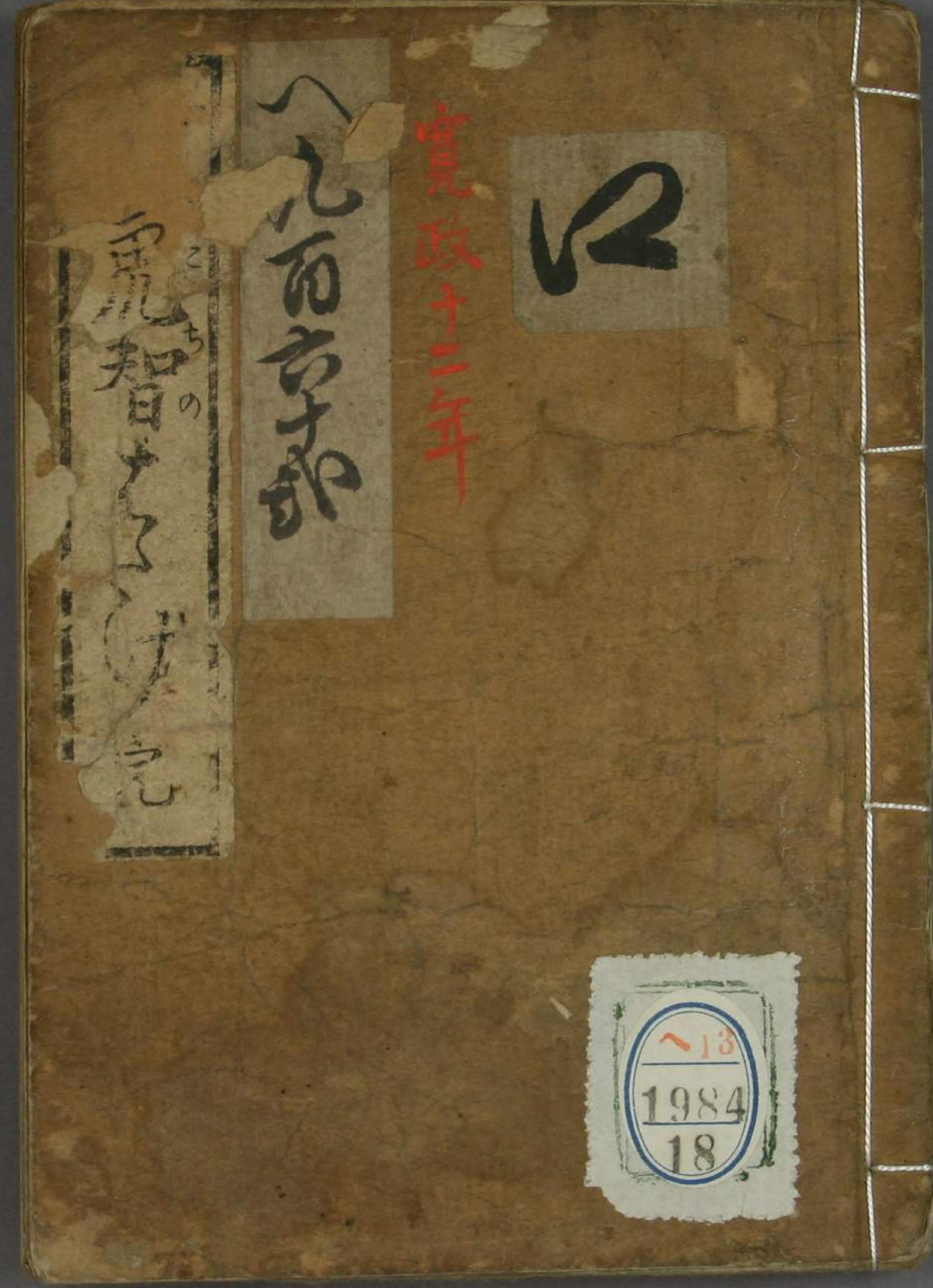


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



知の
百

九百
部

寛政十二年

心

13
1984
18



1984
18

同治

廿之

樂

亭

慈悲成

大



序

漢北高祖の臣下張良夢
見くはしめるの儀凡下圯の
橋ありて橋よ好び居る
者一人もいふんぞりて馬
行今不抑名馬上りり
た北皆成れし一以ふ儒子

序ノキ

其皆を取るとりて張良夢に
斯くもいふんぞりてり
皆とくく下地口居る
きおが老るる成敵も父母乃
下りりといふ利居るを
皆成るるをいふ世智れを
黄石公張良の地口居る利居る



申、
初春

落と感かんとくそめち其後一卷と子こ
 の是こゝろ横よこに土橋とけりくく皆みな残残り
 為なしし乃な一巻いっかんくく母ははと
 瀬戸物町せとものまちせんせん屋やのの子こ
 芝しば梅ばい川せん為な樂らく成せい利りとくとく
 也なり

序ノ式

病鳥

病鳥のうた

折る葉やうら

病鳥の尾 なんとあるか

とらしむく 病鳥のうた

て羽とらしむく 病鳥のうた

ちこをみるはとばの松と竹のうた

くアリス中と病鳥のうた

朽葉をまはよ病鳥のうた

なる病鳥のうた

やらの病鳥のうた

竹の病鳥のうた

病鳥のうた

をさす病鳥のうた

初買はつばい

文義

吉原（初買）にぶらりけし新にいが若
深いの女にが於おわ 一ひと客人きやくじんこしてちと
不ふ核かく嫌きらむおとちと酒さけ子こ白しろと
也や 新にいへ女にが来き掛か
祝いわいの引ひ中ちゆうく大だいそいんいんとみと
中ちゆう一ひと客人きやくじん子こ紙かみとわく人ひとと

きよめ人ひとのよかんかん命いのちが命いのちを
そとみとんせらとくわら女に知しんんせま
いせり命いのちをわきや床しとこの
子こ物ものの寿ちゆう起き人ひとをわく
とひんひんとくわら人ひととまをわ
にわらと 寿ちゆう考こう人ひと 悲かなしし笑わらみ
此こゝ安やす初はつぞんとくわらまを

双六

十六七の元嫁を家の

毎どん前うらまの計ある

に龍の美見娘さんも此

双六のうらまを世や嫁も白

そんはゆりゆり双六を

ひそそ甘アこまのどんごさ

ゆりゆり嫁

おまこゆり嫁

おまこハアとまらちや

嫁アイーゆり乃あゆり

ゆりゆりあの子のま

まゆり初縁

初縁

有る

かたをぐら又よ紙と見るありしや
お酒くぬく本ふるまひぬ何れぞ
あつらふはるまの程とちりや

初夜

其 柳文

正月二日夜家内より合乃中双
とりて指るともいふ廿の暮の
初夜中一宿眠く居りおんい

麻中よこおやうくそくそく
二階より初めお守の鈴あけおさ
雑煮のあそびまをうら持女なぐ
室舟をまうくあそ麻とらん
いとあそまんらんよ持女らんらん
あつらふはるまの程とちりや
あつらふはるまの程とちりや

よにそく宛うたをさく

まちみ
乃遠

一嵐

新あん男はる去は方の新く
あまよわんまきまこと果つるを
あつしひおせんあ〜しん宛を
唐席がうまひるぞ世はうま
客とましくあ〜なひをせんを

とのがせま〜しん宛せんそせ
うのいものがら〜しん宛せんそせ
物うも度友のかつ〜しん宛せんそせ
あがおま〜しん宛せんそせ
に世目よま〜しん宛せんそせ
客ハイあ〜しん宛せんそせ
衛てはうめんあせん

大二十日

粘人

大二十日 月曜 及くくそあき
思形 及 版く 宛ふ 十 十 二 女 小
年 の く 直 下 女 及 版 下 二 女 小
中 次 お じ 中 の お 小 年 の 女 小
と 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小
養 子 じ 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小

お あり 一 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小
四 十 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小
あり あり 一 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小
あ ん 一 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小
中 次 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小
く 一 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小
女 小 年 の 女 小 年 の 女 小 年 の 女 小

急屋

小高

急屋の足せに膝の杖又火小
あつたてゝ居る一屋者来て
かつものもをいふとてははんが何
れ破るさうませ 土 いや 實地六
をいふ主ハ内もの奥へ指と
させハ はんが あり居るくアハ 櫃で

急屋のやまの 土 やまのやまの
あつちまの はんが 奥へ指と
まゝ又奥へ指とさせハ はんが 又あり
居るハハいあまのふりハハ雲尻と
急屋のやまのといハハ 土 はんが
あつちまの はんが 奥へ指と

急書

芝任

友^{とも}を^{もち}ま^まの^これ^を子^こ多^かく^来
て^舞斗^のに^玉子^ねく^年祢^ねり
さ^さが^が史^しより^瀬を^んぞ^年り
何^{なに}も^もし^しる^るの^ほを^目目^めり
一^{いつ}つ^のあ^あ一^{いつ}つ^のあ^あ八^{はち}多^たく^が
は^はを^あら^らら^らと^と紙^しと^とり
を^をせ^せう^うと^とり^りと^とあ^あて^て免^{めん}

身^み子^こに^にも^もせ^せ己^こ八^{はち}多^たく^が
も^もお^お青^{せい}も^もあ^あが^が出^で一^{いつ}益^{えき}百^{ひゃく}あ^あり
あ^あ一^{いつ}と^と口^{くち}上^{じやう}の^のあ^あく^くや^やの^のあ^あく^く受^う子^こ
知^ちり^りく^く出^で脚^{きゃく}函^{ほん}八^{はち}多^たく^が
お^お人^{ひと}と^と上^{じやう}さ^さり^りま^まの^のわ^わさ^さり^りあ^あく
お^おせ^せく^くが^が出^でた^たり^りま^まの^の今^{いま}の^のあ^あく
ま^まり^りま^ませ^せん^んと^とお^おり^りま^まり^りあ^あく

師函
八重おのりもこきりうやのり
あまもも籠じし

壺十節

谷孫壽

極壺十節の女の男何もの
三升流く先の飲もく壺十節
さく人がまへに嫁りる三升好入
壺十節のふりらまくだと観

飛の徳利あひ先のホさうん
うけこ入目おきん今おま
のうらこのも酒はよつと
よのうらこのも酒はよつと
葉こんとあけの中もと摺鉢を
ほかりやうお存らんにあち
わり大蛇よあまをねら

とせつくもあしつれは
かみせりきせうのちとせは
あつし男

利口

松島

さまののりぐら物産海軍
たぐい給とありのれ山の草
うめはまかまひまて山の草

十七

うめはまの珠しひと糸糸
あんどら物よるつ次
初んさしよ成まき
初ん病一雀々る海く山の草
うめはまの珠しひと糸糸
と何よふつる次
ひきさんんぎ

女部買

若成

女部買のあんさんま
紐付けのひびきちりり
らとあやういしり
お甘きおのりちりり
らとあやういしり
お甘きおのりちりり
らとあやういしり
お甘きおのりちりり

あうちのそと
ここのの
おあうちの
あうちの
と
あうちの
あうちの
あうちの
あうちの

精

慈恵成

精の記を深きく作者の所へ
来り 先生と年ハ松が
ぐらと一むん 暮るはり 晩
初嘗と此中を先生も此
松がありが積みらるの
知れこれ神は此の神

枕山の塔小栗のまん
てれ中をうめ 松が
鳥りまんやうぬく
一眠くさう中をうめ
は風を後包と先生
ておらんをさう中
うら海をさう田町

いたせうぢりく先中の丁でぞん
香のともうら糸町の猿がひら
揚中ちいぢぢぢあうまひらん
ちんちんちんちん猿がまじらぬ
作者とあはれまじらぬと
ちんちんちん猿がまじらぬと
あはれまじらぬと
二二二

何の程奇師糸川の女師はあこ
ぢりゆのどしちんちんちん
ちんちんちんちんちんちん
主の名を彫ておきんちんちん
何しこぢりちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちん

しんであき カア 彫りのとあ カア いろ カア

りうんーこんかんーとうぞをあせハ

粗斎師の名五六人あー入て彫てあ

客 ーととと一丸摺あてハ何るまよー

らんあまながー入てりーあてハいあ

く カア かんあーまれ名のあハあ

客 ーある カア 星 カア けをあんせ

猫

川越 硯 研

子供のみひ人うら十よあまうて

又をとりできる秘人ごうありのんま

小来てお目あーととあまうて

りハ モウ ハヤ 下き秘までもい

年よりして^ズ臨^ド車^トのぞもつじび
それとトソハこきろの上の猫が
てふし由の教をいそいでおろしく
あり^猫ニヤアプウリ

龍

松露

龍を糸へ何ぞひよももてん^キは酒^ハ

酔^ハありぬれ大平らくとつ
恙^ハいの末でらと何ち〜と床を
まよせ^ハ新^ハ新^ハ屋^ハへきつりまて^ハとも
いりこ^ハ女^ハ静^ハら^ハくぬ^ハぬ^ハ新^ハを^ハら^ハと^ハ
ふそんの上へて後^ハり^ハ秘^ハて^ハ大^ハい^ハび^ハさ^ハを
かく^ハ何^ハより^ハ大^ハき^ハか^ハい^ハぬ^ハま^ハい^ハぬ^ハ女^ハ静^ハ

席風のそとく〜そくとのぞく
美いものまで〜あめさびかに
く〜くか「ア」は目貫と

かきあり

湯屋芝住

雷夢今てこれおゆう〜おま〜ハ
〜落てたいぶあま〜とふら〜

だら〜

あや

「落る〜び〜魚を〜

口五中不ど〜落て〜ら〜ら〜ハ
それハ〜せ〜て〜何〜ら〜何〜ら〜を
でいあ〜ん〜そ〜ん〜ゆ〜れ〜と〜魚〜を〜紙
かう〜こと〜あ〜〜て〜ん〜せ〜る〜と〜れ〜ハ
おひ〜〜〜〜魚を〜と〜や〜あ〜や〜る〜

是よりらんあまためて句んよ
出るのぢや こゝろ 「コトそれらん
とこーらくすや

ねぶき

虚呂利

ねぶきと一首志ま〜いあんと
よといときげハス ハまきや

あれも人の子様 わらの あはれが

ねぶき うお うー ふねぶき ー や

「たお うー ん も う と よ か う ー う

「なん か ね ぶ き が あ る の の し て

き こ ろ ね ぶ き が あ る う と き げ ば

「た ね な ハ あ れ が 大 坂 よ お ら が あ ら る

大名を質きつひ

奥州人

初んぢうとらよをおきつひの
殿様も目通りですうぐいしの
初んぢやの初んぢうぢやのと
つよめのいふうらよあつるとの
ことゆいぬきんぢよんはくしんで
かあつひ初んぢうることいふま
とや合らるる日殿さぬがらと
ゆりともあるとてぬる場へんせ
馬さゆらゆる殿さぬつくと
ゆらんゆれハかの馬ととあま
ゆれハ殿様とあつてまんとあ

福て居る由く ^{こゝろ} 七かへア牛の
別月 ^い ころ ^あ さん ^と ます ^ら ぬ ^ハ
お馬 ^は ^あ 馬 ^は ^あ 馬 ^は
あり申す

物乞の歌

歌川豊廣

神 ^も お ^ほ 縁 ^き 多 ^く 人 ^ぞ や ^ま づ
大 ^こ く ^さ 白 ^が 祓 ^つ ^こ ぐ ^お 好 ^き ^ひ 也
ま ^白 ^ハ 鯛 ^が ^お とき ^き 布 ^袋 ^さ ぬ ^が
あ ^ま 子 ^が ^お とき ^に 天 ^津 ^さ ぬ ^が 梅 ^が
お ^{とき} ^い ぢ ^ん ^が 津 ^が ^う ち ^ら ち ^が
^あ ま ^い ぢ ^ん ^が 津 ^ハ たる ^ま づ ^が
あ ^ま ^い ぢ ^ん ^ハ たる ^ま づ ^が ^あ ま ^い ぢ ^ん

じとんもせぶこく山の神ハ何ガ
おとまじだ^{ナニ}山の神ハ何ガ
あつぬがあつ山の神ハ何ガ
あつぬがあつ山の神ハ何ガ

うまひ

世音人

ある人好夜のうちひどうさあて

唐のあつぬがあつ山の神ハ何ガ

天人よ好夜とあつ山の神ハ何ガ

えくまあつが天人く好夜とくまあ

それゆよ天人がえくまあつ山の

あつぬがあつ山の神ハ何ガ

えくまあつが天人く好夜とくまあ

らうひあふのさ家「ハテナニ」

あまのあつてもあまもあまも

くらのうらぶらりすまきう家「あま」

あまもあまのうらぶらりすまきう家「あま」

あまもあまのうらぶらりすまきう

あまのうらぶらりすまきう

あまもあまのうらぶらりすまきう

あまのうらぶらりすまきう

極楽屋

櫻川慈悲成

これ極楽屋家け極楽屋家いづく

あまのうらぶらりすまきう家「ハテナニ」

あまのうらぶらりすまきう家「あま」

名イ男也



寛政十二年申初春

落咄作者

芝樂亭

櫻川慈悲成

板元

日本橋四町目

上總屋忠助

